

ヒアリ (Solenopsis invicta) の国内初確認について

平成29年5月26日に兵庫県尼崎市において発見されたアリについて、専門機関による種の同定の結果、6月9日に特定外来生物であるヒアリ (Solenopsis invicta) と確認されましたので、お知らせします。当該ヒアリは、中国・広東省広州市の南沙港から出航した貨物船内のコンテナ (1個) の内部で発見されたものです。

このことから、コンテナ内を燻蒸消毒するとともに、現在、確認地点において、捕獲トラップ等を設置し、ヒアリの侵入がないか緊急調査を開始しました。

ヒアリは、南米原産で体長は2.5~6mm程度、体色は主に赤茶色の有毒のアリです。世界では北米や中国、フィリピン、台湾等にも外来生物として侵入・定着しており、世界各地で大きな問題となっています。これまで、日本では侵入は確認されていませんでした。

1. 経緯

当該ヒアリは、中国広東省広州市の南沙港から出航した貨物船内のコンテナ (1個) の内部で発見されました。

5/15 中国広東省広州市の南沙港を出港。

5/20 兵庫県神戸市神戸港に到着、陸揚げ。5/25まで保管される。

5/26 兵庫県尼崎市において、コンテナから積み荷を取り出す際にアリのコロニーが発見される。通関業者から近畿地方環境事務所へ報告。近畿地方環境事務所から通関業者に対し、アリのサンプルの送付と、コンテナの燻蒸消毒を依頼。

5/29 近畿地方環境事務所へサンプルが到着。専門機関に対し種の同定を依頼。兵庫県へ情報提供。

6/1 輸入業者が、神戸市にコンテナを移動させ、燻蒸消毒を開始 (燻蒸剤は燻化アルミニウム)。

6/5 燻蒸消毒を終了。輸入業者がアリが全て死滅していることを確認。

6/9 専門機関により、サンプルがヒアリであることを確認。

2. 今回の確認された種について

確認されたヒアリは、既に同種が定着している中国広東省広州市から輸送されたコンテナの内部で発見され、また、現段階では他の貨物やコンテナが一時保管された場所の周辺からの発見情報はないため、積み出す際にすでにコンテナ内部に付着していた可能性が高いと考えられます。このため、現時点では、ヒアリが日本の当該地域周辺に定着し繁殖している可能性は低いと考えられます。

3. 今後の対応

当該コンテナで確認された個体は、初期対応の結果、全て薬剤の燻蒸により消毒処分されました。しかし、今回、ヒアリの付着していた貨物が日本に到着してから消毒されるまでの間に、周辺地域に侵入してしまった可能性も否定できません。

このため、現在、コンテナが一時的に留め置かれた地点 (兵庫県神戸市2カ所、尼崎市1カ所) の周辺において、殺虫剤を設置するとともに、捕獲トラップを設置し、ヒアリが侵入していないことを確認するための緊急調査を開始しました。

なお、輸入業者等 (※) に対しては、以下を指導しています。

・今回使用した船舶や保管場所、倉庫、その他運搬車両等の関係者に当該生物の混入があったことを周知し、他に混入の恐れがないか確認を依頼すること

・今後同様なルートで製品を輸入する際に、当該アリその他の特定外来生物の付着・混入がないよう、現地の工場・保管場所・コンテナ置き場・積み出し港等の状況を把握し、対策を採ること

・環境省が行う緊急調査に協力すること

(※) 輸入業者のほか、運送業者、通関業者、港湾荷役業者。

4. 情報提供のお願い

ヒアリは、攻撃性が強く、刺された場合、体質によってはアナフィラキシー・ショックを起こす可能性があるなど人体にとって危険な生物です。世界各地に定着がみられることから、一旦定着すれば根絶することは困難となるため、侵入監視により、早期発見、早期駆除により定着前に根絶を図ることが極めて重要です。

神戸港に限らず、海外からの貨物や旅客が到着する港や空港においては同様にヒアリ侵入のリスクがあります。

地方自治体や駆除業者の方々につきましては、ヒアリと思われる個体が発見された場合には、管轄区域の環境省地方環境事務所にご連絡ください。

連絡先URL : <http://www.env.go.jp/region/index.html>

ストップ・ザ・ヒアリ（ヒアリの特徴・生態・駆除方法・刺されたときの対処方法等の参考）：
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_fireant.pdf

※ヒアリは強い毒を持つため、生きた個体を素手で触らないようにしてください。

（ヒアリの写真）全体は赤茶色で腹部が黒っぽい赤色



ヒア리를発見した場所及びコンテナの燻蒸作業を実施した場所



添付資料

[ヒアリ参考資料 \[PDF 134 KB\]](#)

連絡先
環境省自然環境局
野生生物課外来生物対策室
代表 03-3581-3351
直通 03-5521-8344
室長 曾宮 和夫
室長補佐 八元 綾
担当 若松 佳紀
近畿地方環境事務所 野生生物課
代表 06-4792-0700
直通 06-4792-0706
課長 鑑 雅哉
課長補佐 深田 富士雄

(参考)

ヒアリについて

1. 生態について

- 原産地：南米
- 日本での定着状況：国内未定着
- 亜熱帯～暖温帯に生息し、草地など比較的開けた環境を好む。土で直径 25～60 cm、高さ 15～50 cm のドーム状のアリ塚を作る。雑食性で、節足動物、小型脊椎動物、樹液、花蜜などを餌とする。

2. 懸念される影響

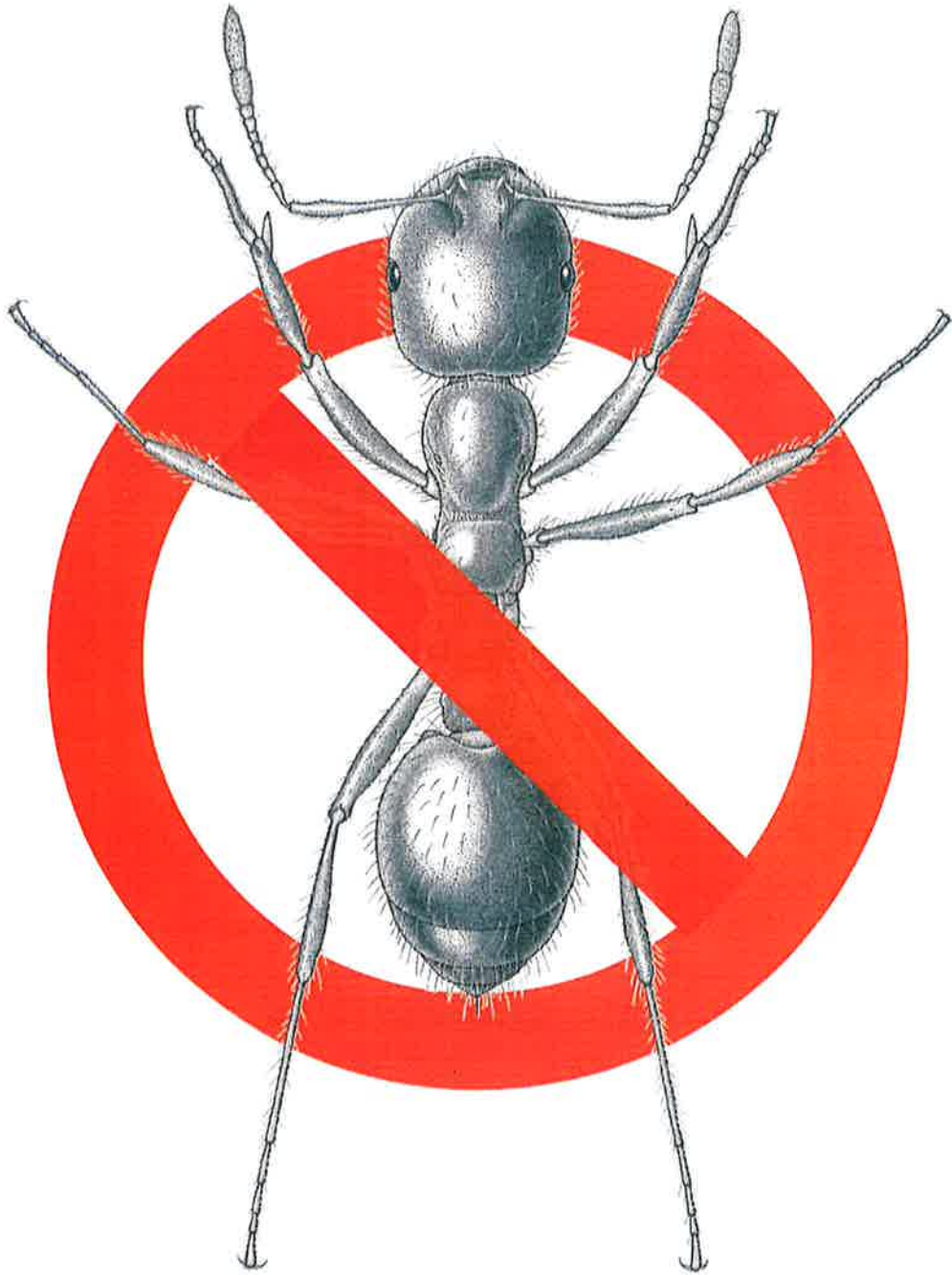
- (1) 生態系にかかわる影響：他種のアリと競合し駆逐するおそれがある。極めて攻撃的で、節足動物のほか爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃し捕食することが知られ、鳥類の営巣・雛の生育に影響を及ぼした例もある。
- (2) 農林水産業にかかわる影響：牛、馬、鶏など家畜への死傷被害
- (3) 人体に関わる被害：刺されると、アルカロイド系の強い毒による痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされる。アレルギー性のショックで昏睡状態に陥ることもあり、米国ではこれまでに多くの死者が出ている。

※貨物等に紛れて気付かないうちに持ち込まれ、中国や台湾など環太平洋諸国に分布が急速に広がっている。



STOP THE FIRE ANT

ストップ・ザ・ヒアリ



危険な外来昆虫「ヒアリ」による被害を防ぐために

小型アリにもかかわらず

刺されると火傷^{やけど}のような激しい痛み！

ヒアリ（別名：アカヒアリ 学名：*Solenopsis invicta*）は、漢字で“火蟻”と表され、刺されると火傷^{やけど}のような激しい痛みが生じます。赤茶色の小型のアリで、腹部は濃く黒っぽい赤色。体長は2.5ミリから6ミリと大きさにバラつきがあり、土でアリ塚を作って住むこともヒアリの特徴です。

毒性が強く、毒針で刺されるとアレルギー反応により死に至ることもあるため、世界各地で大きな問題となっています。人体への被害等を及ぼすことから、外来生物法により「特定外来生物」に指定されています。南米中部原産のアリですが、現在では米国をはじめ環太平洋諸国に定着しています。日本での生息は未だ確認されていませんが、中国、台湾などに定着しているため、日本への侵入を警戒する必要があります。

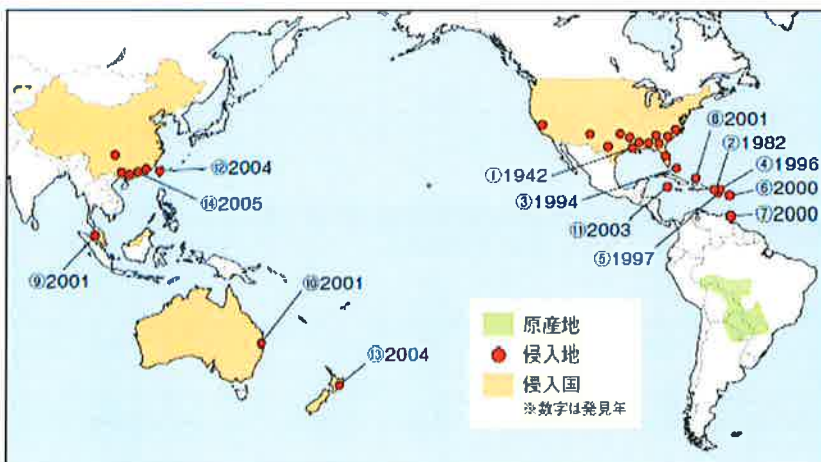


全体は赤茶色で腹部が黒っぽい赤色



土で作られるドーム状のヒアリの巣(アリ塚)

◆ ヒアリの分布地

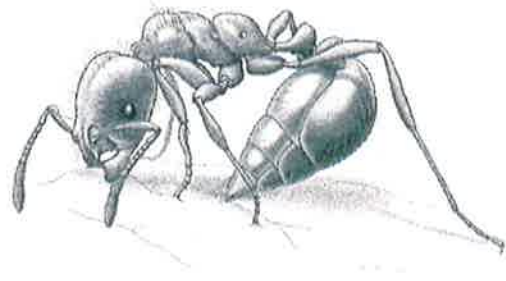


侵入地

- ①アメリカ合衆国南部
- ②プエルトリコ ③バハマ
- ④イギリス領バージン諸島
- ⑤アメリカ領バージン諸島
- ⑥アンティグア・バーブーダ
- ⑦トリニダード・トバゴ
- ⑧タークスカイコス諸島
- ⑨マレーシア・ペナン島
- ⑩オーストラリア・クイーンズランド州
- ⑪ケイマン諸島
- ⑫台湾 ⑬ニュージーランド
- ⑭中国

米国では年間100名以上が死亡
ペットや家畜への死傷被害も多数

ヒアリは攻撃性が強く、巣を刺激したりすると集団で襲いかかります。大あごで咬みつき、腹部の先端にある毒針で何度も対象を刺します。アルカロイド系の強い毒による痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされます。またアレルギー性のショックで昏睡状態に陥ることもあり、米国では年間に100名以上もの死者が出ています。さらに飼い犬などのペットや牛、馬、鶏など家畜への死傷被害も数多く報告されています。



ヒアリは咬みついた後、毒針で何度も刺す

刺されたらどうなる？



腫れ上がり、痛みやかゆみ、膿ができる



じんましんや患苦しさ、激しい動悸を引き起こす場合もある

在来アリを駆逐する性質があり
生態系に大きな影響を及ぼすことも

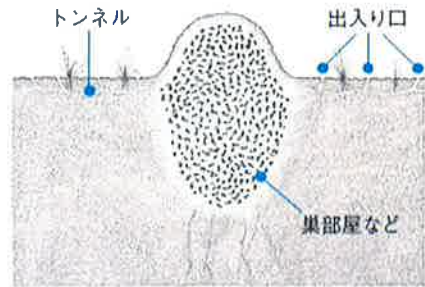
在来のアリを駆逐する性質があり、在来アリと関係をもっていた様々な生物（昆虫、植物等）に間接的に影響を及ぼす可能性があります。また捕食や刺傷によって昆虫や小型の哺乳類、鳥のヒナなどに直接的に影響を与える場合があります。

03

ヒアリの目印：アリ塚

直径25～60cm、高さ15～50cm
土で作られるドーム状のアリ塚が目印

土で作られるヒアリの“アリ塚”（巣）は、農耕地や公園など、開放的な草地・裸地に多く見られます。直径25cmから60cm、高さ15cmから50cm程度のドーム状になり、最大で高さ90cm、深さ180cmに達します。巣の内部には迷宮状にたくさんの巣部屋があり、このアリ塚から四方に向けてトンネルが伸びています。働きアリはそのトンネルを通過して餌を採りに出て行きます。



ヒアリが作るアリ塚の断面



初期のアリ塚



中程度に発達したアリ塚



大きく発達したアリ塚（最大高さ90cmに）

在来種の巣との比較

土で大きなアリ塚を作る日本の在来種はいません。

エゾアカヤマアリ



落ち葉や枯れ葉で巣を作る。北海道や、本州中部以北の寒冷な地域に生息。



トビイロシワアリなど



土粒が盛られる小さな噴火口型。高さ10cm未満で、盛土の中には巣部屋はできない。



開放的な土地を好み、土を用いたアリ塚を作る。地上部にも巣部屋ができる。

□ 4

ヒアリの特徴：色・かたち

大きさは2.5mm～6.0mm

カラダは赤茶色、お尻には毒針

ヒアリ

体長2.5mm～6.0mm。全体的に赤茶色。腹部は濃い赤色で黒っぽく見える。お尻の毒針で積極的に刺す。



◆ ヒアリと似ている在来種



ヒメアリ属

体長1.5mm～3mm。触角のこん棒部分は3節。刺されてもあまり感じない。



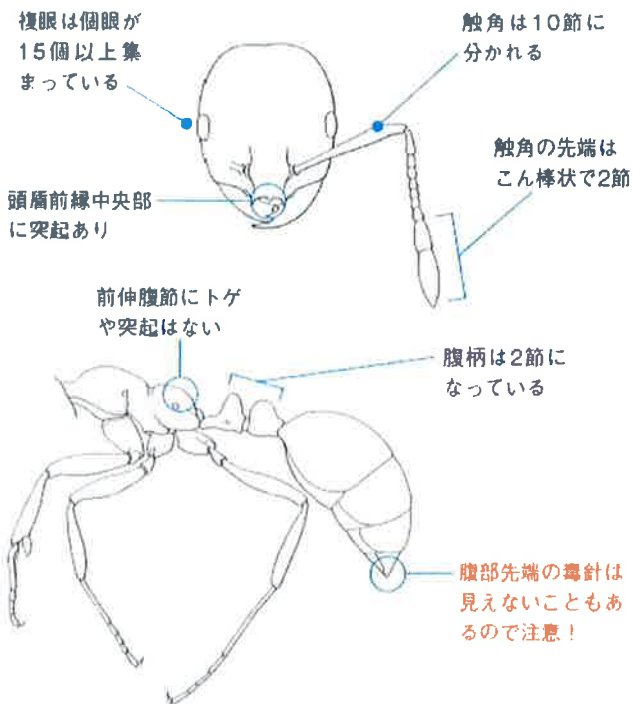
クシケアリ属

体長3.0mm～5.5mm。胸の後背部（前伸腹節）にトゲ。お尻の毒針で刺すことがある。



オオズアリ属

体長1.5mm～4.5mm。頭部が大きい兵アリがいる。刺さない。



大小さまざまなサイズが混在するヒアリ



ヒアリには2.5mm～6.0mmと様々な大きさの働きアリがいる。ただし、オオズアリ属のように大型の働きアリで頭部だけが極端に巨大化するようなことはない。

ヒアリを発見したら地方環境事務所等に通報を！

駆除方法は、熱湯、液剤、ベイト剤

ヒアリを発見した場合には、地方環境事務所等
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2procedure/reo.html>
 に連絡先一覧を掲載しています）に通報して
 下さい。なお、駆除方法は以下の3つがあります。

1. 熱湯をかける

即応性○ 実効性×

熱湯を巣穴とその周辺に注ぎます。熱湯が直接かかる範囲のアリは死にますが、アリ塚の深部にいるヒアリは駆除ができません。



専門業者による液剤の高圧散布

2. 液剤をまく

即応性○ 実効性△

巣に直接散布します。市販の液剤で自ら駆除するより専門業者による高圧散布の方が高い効果が期待されます。液剤に接触したヒアリはもちろん、液剤に接触したヒアリが巣内で他のヒアリに触れても駆除効果があります。ただし、他の昆虫類にも影響を及ぼします。



ベイト剤を設置して様子を見る

3. ベイト剤を設置する

即応性△ 実効性◎

顆粒状・ゼリー状のベイト剤（毒餌）をヒアリの行列内や巣の周辺に設置します。薬剤が持ち去られる限り、追加・交換をします。働きアリが駆除剤を巣に持ち帰ることにより巣の内部まで駆除が可能。時間は要するものの1, 2よりも確実に駆除ができます。

防除効果の確認のためのモニタリング

継続的な防除により、確認できるヒアリが減っている場合でも、巣の外に出る働きアリが減少しているだけかもしれません。巣のあった場所近くにシロップなど誘引トラップを設置して一定時間誘引し、集まったアリを採集して種類や数を確認しましょう。ヒアリの確認ができなくなっても1カ月後、3カ月後、6カ月後、1年後ぐらいまでは定期的なモニタリングをオススメします。ヒアリの根絶確認には慎重が必要です。



シロップとツナを用いた誘引トラップ

●ヒアリがいなくなったとされる基準

1. 誘引トラップに現れない。
2. 在来アリの生息が見られるようになる。

□ 6

もし、ヒアリに刺されたら

安静にし、急激な容体の変化が
現れたらすぐに病院へ

ヒアリの毒への反応は人によって大きく
異なります。刺されたときには安静にし、
急激に容体に変化する場合には速やかに病
院に行きます。

症 状

●軽度／刺された部位の痛みやかゆみ

刺された瞬間は熱いと感じるような、激しい
痛みが走ります。やがて、刺された痕が痒く
なります。10時間ほど経つと膿ができます。

●中度／じんましん

刺されて数分から数十分後には刺された部分
を中心に腫れが広がり、部分的、または全身
にかゆみをとまなう発疹（じんましん）が現
れることがあります。

●重度／呼吸困難・血圧低下・意識障害

刺されて数分から数十分の間に息苦しさ、声
がれ、激しい動悸やめまいなどを起こすこ
とがあり、進行すると意識を失うこともあ
ります。これらの症状が出た場合には重度の即時
型のアレルギー反応「アナフィラキシー」で
ある可能性が高く、**処置が遅れると生命の危
険**も伴います。

●ヒアリの毒成分

ヒアリの毒にはアルカロイド毒であるソレノブ
シン（2-メチル-6-アルキルピペリディン）の
ほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパー
ゼやヒアルロニダーゼなどが含まれています。
そのためヒアリに刺された経験がなくても**ハチ
毒アレルギーを持つ方は特に注意**が必要です。

対 処

●刺された直後の対処

20～30分程度は安静にし、体調の変化がな
いか注意しましょう。軽度の症状のみであり
症状が悪化する様子がなければ、ゆっくりと
病院を受診しても大丈夫です。

●容体が急変したとき

症状は急速に進むので、とにかく**一番近い病
院**を受診します（救急受け入れのある病院で
あればなお良い）。「**アリに刺されたこと**」「**ア
ナフィラキシーの可能性**があること」を伝え、
すぐに治療してもらいます。

●もしもの場合に備えて

特にアナフィラキシーの危険がある方は、前
もって医師に相談し、アレルギー反応を緩和
するためにアドレナリン自己注射キット「エ
ピベン」を用意しておくことができます。重
度の症状が出始めた時点で使用すると効果的
です。また、軽～中度の症状には効果的な抗
ヒスタミン剤の内服薬を用意しておくことも
できます。



アドレナリン自己注射キット

アナフィラキシーについては
下記のウェブサイトも参考になります

日本アレルギー学会

http://www.jsaweb.jp/general/qa_anaphylaxis_con.html

リウマチ・アレルギー情報センター

<http://www.allergy.go.jp/allergy/guideline/05/05.html>

熱湯や市販の殺虫剤で殺虫処理

テープや小瓶などに採集・保存する

専門機関へヒアリか否かという確認依頼などをするために採集が必要になることもあります。その際にはまず、刺されないように十分注意して、熱湯や市販のスプレー式殺虫剤で殺虫処理を行います。そして、確実に死んだことを確認した後、次のような方法で採集します。

1. 簡易式採集・保存方法

セロテープに貼り付けて、テープ内に閉じ込めます。周囲を囲むように接着し、アリの体がつぶれないように注意します。

2. 保存性の高い採集方法

ピンセットでつまみ、小瓶やフィルムケースに入れます。アルコール（消毒用エタノールやアルコール度数の高いお酒）に浸すことができればさらに良い状態で保存できます。

※死んでいても針が出ていて刺さることがあるので、決して素手で触ってはいけません。



方法1：セロテープで周囲を囲むように接着する



方法2：素手では触らずピンセットなどを使って瓶やケースに入れる。

ヒアリも関係する「外来生物法」とは？

2005年6月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が施行されました。この法律は、生態系、人の生命・身体、農林水産業に係る被害を及ぼし、または及ぼすおそれがあるものとして「特定外来生物」を指定し、取り扱いを規制しています。現在、アリについてはヒアリの他、アルゼンチンアリ、アカカミアリ、コカミアリが特定外来生物になっています。これらの生物を持ち運んだり、飼育したりすることは禁止されています。（ただし、死んだ個体は対象外です。また野外で捕まえたものをその場ですぐに放すことは禁止されていません）

外来生物法について詳しく知りたい方は…

<http://www.env.go.jp/nature/intro/>

制作・発行 環境省自然環境局
 編集・発行 財団法人自然環境研究センター
 編集協力 森 有貴子
 伊藤直香（東京大学医学部小児科）
 デザイン 高瀬 薫
 イラスト 川島逸郎
 写真提供 日本産アリ類画像データベース
 宮崎智史
 財団法人自然環境研究センター

平成21年3月発行

発行元
 環境省自然環境局 野生生物課外来生物対策室
 〒100-8975
 東京都千代田区霞が関1-2-2 合同庁舎5号館
 TEL：03-5521-8344 FAX：03-3504-2175

強毒ヒアリ 国内初確認

神戸港經由、尼崎で

環境省は13日、特定外来生物で強い毒を持つ南米原産の「ヒアリ」が、中国から神戸港に入港し、尼崎市内に運ばれたコンテナの中で



国内で初めて侵入が確認されたヒアリ（環境省提供）

発見された、と発表した。国内での確認は初めて。

同省によると、5月20日に中国広州市から神戸港に到着した貨物船のコンテナを同26日に尼崎市内で開けたところ、床や壁面で大量のアリの成虫や卵を発見。密閉し、今月1〜5日に駆除した。調べた結果、9日にヒアリと分かった。

体長2.5〜6ミリ程度で赤茶色、腹部はやや黒っぽい。攻撃性が高く、強い毒を持っており、刺されると、体質によっては呼吸困難などを伴う急性アレルギー反応「アナフィラキシーショック」を起す危険性があるという。

広州市では既にヒアリがすみ着いており、同省は積み出す際にコンテナ内部に付着していた可能性が高いとしている。

今後、神戸港内でコンテナを留め置いた2カ所と尼崎市内のコンテナの開封場所、周辺への侵入がないかを確認する。

(大盛周平)

毒針持つ「ヒアリ」国内初確認



国内で初めて見つかった外来種の
アリ「ヒアリ」(環境省提供)

環境省は13日、南米原産で毒針がある外来種のアリ「ヒアリ」が国内で初めて確認されたと発表した。神戸市で荷揚げされた中国からのコンテナ内で見つかった。ア

リは殺虫剤で駆除したが、外部に逃げ出した個体がないか、同省で周辺を調査している。

ヒアリは体長約2・5～6ミリ、赤茶色をしており、北米や中国などでは既に定着している。毒針で刺されると激しい痛みとともに腫れ上がる。アレルギー反応で死亡する恐れもあり、同省は見つけても手で触れないよう呼びかけている。コンテナは5月20日に神戸港に到着した後、兵庫県尼崎市に輸送された。26日に通関手続きを行う業者が中身を確認したところ、幼虫や卵を含む大量のアリを発見して通報した。

猛毒「ヒアリ」



国内初確認

兵庫のコンテナ、駆除

環境省は13日、強い毒を持つ外来種のアリ、「ヒアリ」を国内で初確認したと発表。中国から貨物船で運ばれたコンテナの内部にいるのを、兵庫県尼崎市で見つけ、消毒して死滅させた。環境省は「現時点ではヒアリが定着し繁殖している可能性は低い」としている。

ヒアリは赤茶色で体長2・5〜6ミリ。刺されるとやけどのような激痛が走る。毒針で何度も刺すほど攻撃性が高く、アナフィラキシーショックによる死亡例もある。

発表によると、中国・広州市の港から出航した貨物船で運ばれたコンテナが、5月20日に神戸市の神戸港（ポートアイランド）に陸揚げされて25日まで保管、26日に尼崎市で積み荷を取り出す際に、内部でヒアリの集団を見つけたという。6月1日に神戸市にコンテナを移動させて消毒を始め、5日に終えた。

環境省は「周辺に侵入した可能性を否定できない」として、コンテナが一時的に留め置かれた神戸市と尼崎市の計3カ所の周辺で捕獲かななどを設置し、緊急調査をしているが、見つかっていない。ヒアリは南米原産だが、一度定着すると根絶は難しく、今では北米、中国などに生息している。

（戸田政考、写真は環境省提供）